

大会規定及び試合規定

1. 本大会の参加資格は J F A 並びに全国専門学校サッカー連盟に登録されたチームの登録選手であること。
(J F A の選手証の所属チームは全国専門学校サッカー連盟加盟校であること)
2. 本大会競技規則は、日本サッカー協会競技規則 2020-2021 に準ずる。但し、下記を追加する。
 - ・ 試合時間
70 分 (35 分-15 分-35 分)、決着がつかない場合は延長戦を行わず、P K (5 人) を行う。
 - ・ 試合ボール
両チームが持参する。
 - ・ 選手交代 9 名登録 5 名迄交代可
(登録された選手 20 名、コーチ・マネージャー3 名、監督・部長 2 名およびトレーナー1 名の計 26 名)
 - ・ 天候に応じて飲水タイム、Cooling Break を設ける。(※熱中症が心配されるため複数回の可能性あり。)
4. 会場作りは試合該当両チームで行い、試合開始 60 分前に完了させること。(用具は大会本部で準備する)。
5. 片づけは、試合該当両チームが行うこと。
6. 退場を命じられた者は、次の 1 試合出場できない。但し、規律委員会を開き、複数試合の出場停止の処分の場合もある。(規律フェアプレー委員長：上田益也、規律フェアプレー委員：各校監督)
7. 各チームは、ユニフォーム、ショートパンツ、ソックスを統一すること (G K は他の選手と色の違うものを着用し、区別できるようにする)。尚、統一していない選手は服装を統一するまで試合に参加することはできない。
試合開始 60 分前に本部にて審判員同席でマッチミーティング (ユニフォームの決定、大会規定の確認) を行う。
8. すね当ては、必ず着用すること。
9. 審判担当チームは、試合開始予定時間の 60 分前に集合すること。
10. 試合開始 60 分前までにメンバー表 (背番号、氏名) 3 枚を本部に提出すること。
11. 大会当日は 学生証及び選手証 を持参すること。なお、写真のない選手証については一切認めないものとする。
12. 試合開始予定時間を 5 分経過しても試合ができない場合は、相手チームの不戦勝 (5-0) とする。
13. 不正登録及び登録外選手の出場については、日本協会にその旨を報告する。
14. 試合には、必ず引率責任者として監督 (学校教職員) が同行すること。同行できなければ、委任状を持った代理人を同行させること。引率責任者が同行していない学校は、試合に出場できず不戦敗となる。
15. 競技中の不慮の事故に対し応急処置はするが、その後の処置は引率責任者に一任する。大会運営本部は一切の責任を負わない。(各チームで保険に加入することを推奨)
16. 各チームは感染症対策を徹底すること。
17. 天候等による試合の停止、中断、中止は主審と大会本部にて決定する。
中止と判断した場合、その時点での得点を試合の最終結果とする。同点の場合は抽選で勝敗を決める。

新型コロナウイルス感染症に関する規定

本大会において大会関係者、チーム関係者（監督、選手等）、審判員は以下の項目（JFA ガイドラインより抜粋）を遵守して大会に参加すること。項目の実行が難しいときは開催の中止、延期を検討する。

大会前の対応

1. 次の事項に該当する場合、自主的に参加を見合わせる。（大会当日に書面にて確認）
 - ・体調が良くない場合（例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）
 - ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後に観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
2. 大会参加者全員のマスク着用
3. 大会後に新型コロナウイルス感染症を発症した場合の速やかな報告
4. 大会中に誰とどのくらいの距離で何分くらい話したか、そのときにマスクを着用していたかなど、他人との接触状態の記憶（感染者発生発覚の際に濃厚接触者を特定するため）

大会当日・会場運営

会場の各施設において以下の点に留意して設営・運営をする。

1. 大会で使用する諸室・テント等
 - ・各部屋にアルコール消毒を設置する。
 - ・全てのドア及び窓を開け、3つの密が発生する環境を阻止し、ドアノブを介した接触感染を防ぐ。
 - ・座席を設置する際に前後左右 1.5～2.0m間隔をあげ、お互いが正面に座らないように配慮する。
2. 手洗い場所
 - ・手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する。
 - ・手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。)
 - ・アルコール消毒液を設置する。
3. トイレ
 - ・手洗い場にはポンプ型の液体または泡石鹸を用意する。
 - ・手洗い後に手を拭くためのペーパータオル(使い捨て)を用意する。(布タオルや手指を乾燥させる設備については使用しないようにすること。)
4. 更衣室・ロッカールーム
 - ・広さにはゆとりを持たせ、利用者同士が密になることを避ける。
 - ・ゆとりを持たせることが難しい場合は、一度に入室する利用者の数を制限する。
 - ・室内又はスペース内で複数の利用者が触れると考えられる場所(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、椅子等)については消毒する。
 - ・換気扇を常に回す、2つ以上のドア、窓を常時開放して換気を行う。

<更衣室等利用者の注意事項>

- ・利用者はマスクを着用し、会話を最小限に留める。
- ・利用者はロッカールームの滞在時間を短くするため着替えに限定する。
- ・利用者はシャワーを交代で使用し、密集を避ける。

5. 熱中症対策

気温が高くなる夏季においては、各諸室の窓やドアの開放、参加者にマスク着用を義務化することなどにより、熱中症を発症するリスクが高まることから、感染拡大防止に向けた取組に併せて熱中症の予防も行う必要がある。

「スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について」を参照するとともに、政府が示す「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイントに基づく下記の点などに留意して活動を実施する。

①マスクの着用

マスク(特に外気を取り込みにくいN95などのマスク)の着用時は、マスクを着用していない場合と比べると、心拍数や呼吸数、体感温度の上昇など、身体に負担がかかることがあるため、参加者に対してはこうしたリスクを周知するとともに、こまめな水分補給を心がけることを徹底する。また、高温や多湿といった環境下では、屋外で人と十分な距離(少なくとも2m以上)が確保できる場合には、マスクを外しても構わない旨アナウンスをする。

②涼しい場所への移動について

参加者に対しては、少しでも体調に異変を感じたら、速やかに涼しい場所へ移動するようアナウンスする。屋外でも日陰や風通しの良い場所への移動を促せるよう事前の準備をしておく。

大会当日・試合

1. 試合に関わる人は、以下の事項を遵守する。

①自主的に参加を見合わせる(以下の事項に該当する場合)

- ・体調が良くない場合(例:発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合)
- ・同居家族や身近な人に感染が疑われる方がいる場合
- ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

②マスクを着用する

③咳エチケットに十分配慮する

④手洗い、手指消毒をこまめに行う

⑤社会的距離(できるだけ2m、最低1m)を確保する

⑥3密(密閉、密集、密接)を避ける

⑦握手、抱擁などは行わない

⑧フィールド上での唾・痰吐き、うがい等は絶対にしない

⑨タオル、飲料ボトルなどの共用はしない

⑩健康チェックシート(別紙)の提出

2. 参加可能な健康状態について

大会開催2週間前から当日までの健康状態において発症及び症状消失の状況が認められた場合、以下①および②の両方の条件を満たす状況であれば出場、参加が認められる。

①発症後に少なくとも8日が経過している

②薬剤（注1）を服用していない状態で、解熱後および症状（注2）消失後に少なくとも3日間が経過している。

（注1）解熱剤を含む症状を緩和させる薬剤

（注2）咳・咽頭痛・息切れ・全身倦怠感・下痢など

※8日が経過している：発症日を0日として8日間のこと

※3日が経過している：解熱日・症状消失日を0日として3日間のこと

尚、上記に該当しなし場合であってもPCR検査または同等の検査(Smart Amp法検査等)により陰性が確認されれば、参加可能とする。

3. ミーティング

試合前を除き可能な限り、WEB会議システムの利用を検討する。

大会後

万が一、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症した場合や地域の生活圏において感染拡大の可能性が報告された場合、すみやかに大会責任者に報告する。

感染症対策責任者 坂元敬介（愛知県サッカー協会 1種専門学校委員会委員長）

立山耕司（トヨタ名古屋自動車大学校）

松田諒（大原法律公務員専門学校）